
朝ごはん・・・たぶんまだ・・・

くじら

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

朝ごはん・・・たぶんまだ・・・

【Nコード】

N3789B

【作者名】

くじら

【あらすじ】

昨日からお泊り。コナンの目を覚ますと・・・

（前書き）

ある朝の風景。

トントントン・・・

コナンは心地いい包丁の音に目が覚めた。

そこはいつもの部屋ではなく勝手知る他人の家。
起き上がると顔を洗いに立ち上がった。

今夜蘭が部の合宿から帰ってくる。

おっちゃん昨日から素行調査で事務所を留守にしている。
幼い小学生が預けられる場所はここに決まっている。

「腹減ったな。」

そろそろ朝ごはんが出来るだろう。

味噌汁の匂いが漂ってくる。

しかし灰原も博士も朝はほとんどパン食のはず。

珍しい・・・いや博士の健康のために和食の方がいいのかも。

今朝のご飯は何かな？

灰原も昨夜は遅かったんだしちよつとは手伝わねえとな。

さっそくキッチンを覗いてみた。

「日本人の朝はご飯に味噌汁が基本なんやつ。」

「ちやうなんて言ってへん。おあげさんが切れてへん。繋がってる
やんかつ。」

まったく誰がアシスタントやね。1人で作るほうが早いんとちゃう
！
」

「何言ってる。オレは泊めてもらうたお礼をしてるんやで。」

「こっちはうちがやるから火を見て。」

「まだ心配あらへんて。それじゃオレはメニューに一捻りしてみる
か。」

「これぞ日本の朝ごはんを作るとちゃうの？・・・そんなひとんちの冷蔵庫を漁るもんやないで。」

「しゃあないやんか。ひっくり返してみんと何があるかわからんやろが。」

起き抜けに気が付かなかった2人のコミュニケーションはだんだんエスカレート。

・・・そうだった。大阪の2人が泊まっていたつけ。

連絡なしに来るからこういう事になる。

この騒ぎに博士が起きてくるのも時間の問題。

灰原はその光景を呆れ顔で見ているだけだった。

「ごめんね、哀ちゃん。」

調味料の場所を聞きながら和葉が謝った。

「別に気にしてないわ。朝ごはん作ってもらっているんだもの。」

後片づけをしなくちゃならない覚悟はすでに出来ている。

哀はいつものようにさらりと答えていた。

「おおつ。やっぱり東京もんの家には置いてあるんやな。」

平次はパックを手に声をあげた。

「何見つけたん？・・・ええつ。」

覗いた和葉は一瞬言葉が止まった。

「そんなん食べ物とちゃう。」

「あほっ健康にいいんや。阿笠のじいさんも気を使こうてるんやないや小さな姉ちゃんがしつかり用意しとるんかもな。」

「いやや。大阪人の朝ごはんとはちゃう！」

「日本の朝ごはんには欠かせへんやろうが。」

これでもう一杯おかわり。朝はしつかり食べなあかんもんな。」

「うちは日本人の前に大阪人や。それはあかん。出さんといで。」

「でも工藤だつて好きやと思うで。」

「工藤くんはおらんやんか。あんたまだ寝てるんちゃう！」

2人の料理は手より口が動く。・・・あつ今は手も動いた。哀は黙ったまま嘔き出しそうな味噌汁の鍋の火を消した。

「おはよう灰原。2人は放っておいてコーヒー飲まないか。」
「そうね。」

泊めてもらったお礼は分かる。

しかし健康に注意されている博士の家の冷蔵庫に2人が欲しい食材が全て揃うはずは無い。

「服部も和葉さんに任せておけばいいのにな。」

コナンは2人の様子を見ながら言った。

「いいじゃない。2人でやりたいんでしょ。ド突き漫才。生で見たのは初めてだけど迫力があるのね。」

哀はテレビのボリュームを上げた。

「工藤くん。後片付けを手伝ってから出掛けるのよ。」

コナンは大きなため息をついた。

美味しい朝ごはんは・・・たぶんまだ・・・。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3789b/>

朝ごはん・・・たぶんまだ・・・

2011年1月5日14時02分発行